刻む会

No. 5 1

長生炭鉱

 O

"水非常"

を歴史に刻む会

代表

Ш

武

信

宇部市常盤町————九(宇部緑橋教会内)

2013. 12. 12

木片は 八 年 活動カンパ 事務局 Ď 前 に

ムページ

http://www.chouseitankou.com

名 義

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

振込先

ゆうちょ銀行

口座番号

01590-7-32405

低〇八三六(二一)八〇〇三

犠牲者 に会い らの 坑 に、 木と梯子 たい 最

. ピ

から引き揚げら

れ

部

が

置 P

かれ

7

いるが、

長生

|炭鉱追悼ひろば」にて思う

副

代表

内

畄

貞

雄

故当時、「生きたい!

祖国に帰りたい!」

と 맥

ならない。 に対して謝 私たち 族 灰の悲し は遺族の深い「恨」に思いを馳 罪 みに寄り添 と協力を求めて V.) 日本や自 いかなくては 治 体等 せ

この

また、

大韓民国遺族会を代表して金永鉉

追悼

.碑が建立された。

京都在住遺

旋

D

\ \ \

宰

(イ・ウォンジュ) さんが遺族として初

地を訪れてから二二年が経過し

てい

る

遺

今年二月、多くの皆さんのご協力に

ょ

0

後

0

声を聞

Ņ

ているにちがい

つの 迎えてい 供 うがんぼだい)では、 る日本人と朝鮮人の無縁仏が安置され 養祭が行なわれており、 悼 福 一方、「長生炭鉱追悼ひろば」には二本 碑 日か故郷に帰 岡県鞍手郡小竹町の があっても納骨堂はない 納骨堂には二百余柱とい 毎年 る日を待っ -九月の 「松岩菩提」 今年で一五 てい 第二日 曜 牲 著 回 しょ わ 日 を れ \mathcal{O} 11

何もな

これが人命を尊重する法治

国

礼儀なの

か!」

と憤慨されてから二

捧げる場所もなければ、

腰を掛っ

け

る施

設

さんが長生海岸を訪れ、「ここにはチェサを ン・ヨンヒュン)さんと金東岩(キム・トンアン)

悼が

行なわ

れた。 ひろば」

犠牲者

八三人の

板

名 追

前

も出身地も

判明しているにもか

か

わ

た。

8

7 追

追悼

において遺族だけ

0

追

 \mathcal{O} が \mathcal{O}

皆さんも少なくない。

悼集会の翌日

(二月三日)に

は、

は

経

っている。

この間

亡くなられた

遺

族 年 家 t

> ず、 ままに その なっ 遺 を骸は 7 1 ٢° るからであ ヤの 海底に放置され

れた ない事実である。 人が、 せなくては いう立場からも で命を奪われたという『 朝鮮 一年 安全管理 一人や、 前 強 犠牲者の遺骨収集を実現さ $\overline{\mathcal{O}}$ 制 Ш 杜撰 的 口県 だからこそ、 に連 0 (ずさん) 行され 水非常』 内外か な長生炭 人権尊重 6 強 来た日 は疑 制 労働 V 군 - 1 鉱 \mathcal{O} 本

悼碑を完成 り返さな 争を二度と繰 会は、 のである。 いう思い 私たち「刻む 侵略 · で追 V



2013年2月3日遺族だけの追悼

― 「戦争は最大の人権侵害」 ―長生炭鉱フィールドワークを終えて

長生炭鉱の"水非常"を歴史に刻む会

内岡貞雄

(はじめに)

れまし 町 鉱 員会主催 洞 二〇一三年十月三一 \mathcal{O} 中心と 人権 Ш た。 \Box 県 小宗務所 また十 L カゝ 同 た字 ら一六 和 教育推 部 月 人の 炭 権 日 \mathbb{H} 進 一二日 皆さんが、 協議 擁 \mathcal{O} (木)、 護 視 終研 会 推進委員 (火 田 町 修に Ш に 長 教 郡 生炭 来ら は 育 糸 曹 委 \mathbf{H}



山口宇部空港上空から見た長生炭鉱(中央右側)

しましたので、その報告をします。ドワークに来られました。私の方でご案内催で、二二人のご住職が長生炭鉱フィール

DVD「アボジは海の底」は導入に最適

ろは、 さ でも さ 等 柄 崪 \mathcal{O} 7 0 連 生活 行され) 〇五年: これてい 々」 パ 波 W ょ で、 \mathcal{O} 0 か 1 と、 う。 か 大 ることです クさん 階 報 洞 \mathcal{O} セリフや、 甘言に騙さ 和 告 が 宗 海 わ で お 小 ・ます。 坑内の 作 そらく 中学生 る様子、 岸 西 高 D つ 0 たし /を歩 1光寺 てい 史実にそっ 成 皆さんには事 田 が V か 市 \mathcal{O} D .ます。 を訪 、彼ら まし この 強制 を見 一の子 いてみたい 近 \mathcal{O} 当 れ D 日 閉 い ケグリ 前 時 本 V 心じ込め やむ てい 日 には た 供 $\dot{\mathcal{O}}$ ね 口 \mathcal{O} D 労働さら D 七~八 て た 朝 成 が \mathcal{O} 時 V は ۲° 作 オリ わ 代 ち D なく長生炭 鮮 務 ただきました。 ŧ この作成 刻 成 解 が \mathcal{O} カゝ 5 新 L 植 局 っそれぞ 年 む会」 最も のです。 に て = りやすく に 婚早 Y 説を受け れ 民地支配 (緑橋教会 おら 会の皆さん た朝 携 前 が 水 見 わ のことな Þ える E たよ 鉱 れ れ 非 鮮 0 1 \mathcal{O} えるで た皆 は 編 ま 持 人寮 \mathcal{O} \mathcal{O} 朝 V) 集

階 産 機 方 械 糸 か 6 内 \blacksquare \mathcal{O} 町 コ 沖 \mathcal{O} 皆さん ル Ш セ 炭鉱 タ は、 竪坑ヤグラや 等 前 門中に宇 さら 部

> 立ち、 芝居」 床 が 遺 カュ に ŋ あ 族 波 石炭記念館等を回 りましたが、 届いたようでした。 向 の思い、 「刻む会」 を見てい 坂 0 西光寺で、 完成 の井上洋子さん ただきま その [りま した追悼 思 Ū ボジ したので、 1 た は皆さんにし 碑 は んから韓 紙芝居に 海 関 0 す 午 底 Ź 後に 玉 0 話 \mathcal{O}

長生炭鉱フィールドワーク

た直 が会社から依頼されてつくった一八七の位 浄土真宗の 後、 当 時 のご住 西 |光寺には 職 <u>(</u>佐 水非 々木真爾さん 常// が 起



長生炭鉱追悼ひろばで読経する曹洞宗の皆さん

会社 る。 常// さん な いう は十分に考えら 件 続 に 事 \mathcal{O} it カコ 故 カュ に が 九 いた出 安置 事 混 け よると の労務 (「刻 ーと書か Ć 年三月) 1 日 細 件 乱 正 は 合れて が 1 が 0 確 なむ会」 今後 [来事] 係や警察 犠牲 あ 大きく なところ $\widehat{\underline{\mathbb{I}}}$ れて ŋ 九 八 ことか 四二 三人 代 ħ 者 \mathcal{O} いる ぇます。 なっ 解 に、 が 家 ま 死 表) 者 な 明 起こったであろうこと 族 年二月三 は す 6 • (宇部地方史 かを待 憲兵 $\vec{\Box}$ た最中で、 が 0 分 0 t それ 出 に 犠 カュ 犠 推 「長生炭 、らと言 たと言わ 月 牲 た 0 な 牲 測 たなけ 者 日 ぜ 者 は て 兀 できま 研究第 \mathcal{O} カコ い は 日 なに 八 会 友 b ま n 事 鉱 Щ 争 ば れ \Box 人 캪 せ 七 件 か ん。 な 九 て 武 1 が 兀 人 水 6 信 事 を 資 11 ىل 非 日 な

1 話 長 l 西 4 生炭鉱 をさ 光 寺 . 起 せ 本 そ しこっ · 堂 0 0 7 戦 で、 水水 たサ ただ 争 非 曹 だきま 日 コ 常 洞 本 宗 玉 は L 0 アジア 皆さ 事 た は 件) 国 家総 W 太 に 動 لح 平 小 員 洋 L う 戦 お

な

底

渞

0

漏 6

水 n

出 L

水

は

簡

単 \mathcal{O}

な

応 う

そ

は

岸 が 追 5

沖 読 悼

 \mathcal{O} 経

洞

 \mathcal{O}

皆 炭 寺

西

光

か

生

鉱

は

な れ 宗 長

カコ

لح 海 様

恵

11

ま

なが

~る危険

0

ため

絶

対

禁

止

一であ

った 常

ま

す

置

で 海

済

ま 坑

せ

払

掘

ŋ

<u>×</u>

は

水

 \mathcal{O}

強

制

労

働 に

をさ

せ

ま

た。

そ 右

ょ 採 た

は

方的

産

産業戦士

とし

7

炭

掘

い

j

総

カ

戦

で

臨

み、

朝

鮮

人

坑

夫

ち

さに . ф 状 事 況 故 でし 戦 を カン 争 わ 誘 6 は 発 させ 最 ず行 大 こ \mathcal{O} な 人 L わ せ、 ま 権 侵 0 た そ 害 \mathcal{O} 0 です 結 を 映 果、 出 ま 水

(3)

没 12

す

② 長 れなか 思えず たの 西岐 があ まら 遺 話 \mathcal{O} 朝 は 0 1 兀 ば 炭 炭 走 0 でり、 た今 日 を牛馬 たと 鉱 鉱 悲 鮮 \bigcirc 生 族 板 れ は です。 上本人 塀 波 ず で 炭 ホ 0 0 7 で 子 人以上 あ 鉱 (※)炭坑用 Ė た L 朝 な ツ 4 小 0 11 で 11 // とす 八児童 学校 ども たの た。 を共 と同 うの 井 ま 鮮 水非 は坑 彼等には 0 忘 0 カン そうし たがゆ に み ŧ L 人 れ たち に通 です。 を収 た。 有 か 坑 道 は る気持 じように ŧ 常 7 地 注語…支柱を取 6 異 そ 夫 が 11 L 元 その た中 でう朝 へを使 くえに、 てく 当 常 兀 $\tilde{\mathcal{O}}$ 容 長 で な 人権 \mathcal{O} 海 ち 然の そ 周 11 な 時 で 生 は 危 底 、ださっ きる にさ لح 優 ŋ で $\overline{\mathcal{O}}$ 考えて ことで 間 炭 か 鮮 辺 険 \mathcal{O} 0 よう 監視 朝 担 ように 7 L 添 人 カゝ を 鉱 日 性 6 11 0 払って さ せ 厄 本 う 任 0 け 0 鮮 が 浅 方も を七 たし な状 朝 海 · 人坑 子 6 6 V L 体 X 炭 発 予 \mathcal{O} V た ども た。 岸 鉱 先 差 Ē 鮮 ところ 水没 1 れ 展 想 制 掘 لح たとし えるやり お 生 別 与 沿 夫 さ \bigcirc ま 況 1 人 L 6 を取 لح は 年 が さ え 朝 寮 す い 事 た ル れ 下 11 Š 沂 呼 カュ 鮮 故 方

> に至ら 多く 神社 園に 当 が 0 が L 力 督 間 ま 所 É 0 強 府 時 1由を取 は朝 年 要さ 戦 \mathcal{O} 0 参 L に が 拝 た。 な 朝 争 自 神 置 神 か 鮮 鮮 社 由 が れ 社 カコ ソ り上げ 会 強要され もちろん、 ゥ を 0 人 ました。 が 神 れ 参 人はそ 束縛 でき、 たようです。 社 拝 ル 0 が が 南 いる暴挙 現実 当 強 \mathcal{O} 建 \mathcal{O} 要され 意味 長 朝 5 南 時 たと言わ な 思 生 内 鮮 は Ш 地で 人に 0 が 想 を 炭 朝 京 チ です ま 理 鮮 ま 鉱 城 Ł か 信 \mathcal{O} 解 れ 参 全土二 A に L ように、 た。 ま 拝 サ V) お 神 に 条 するま P す 社 を 朝 通 1 八 信 が 7 参 強 鮮 る 仰 で 拝 要 九 \mathcal{O} 公 総



床波組共同墓地にある新浦炭鉱

ひろ $\overline{\bigcirc}$ す F を ば あ Y げ 年 に てくださ 移 月 動 届 に そこで 竣 1 ま た 工. 0 殉難者之墓(市水道局工事中) L L た。 曹 た

遺族 できるはずはありません。 会に支援をいただいている人びと」も納 眠れ」と書かれているだけです。これでは も説明も全くありません。 多くの朝鮮人坑夫が亡くなったという経緯 です。碑には水没事故犠牲者の名前がなく、 して宇部市行政などによりつくられたもの 日に建立、 行きました。 その後、「長生炭鉱殉難者之碑」の の方 々はもとより、「刻む会」や「刻 西岐波住民 この 碑 は 九八二年四 もと会社関係 ただ「安ら い場所に 月 かに 者そ 一七 得 to

この まし は、 てもわからず しましたが、 ました。 ま昇坑せず、 国人少年が入って行きま か) 三坑で、 日の枕崎台風の時、 務)から聞きました。「一九四五 事前に私の友人 権に大きな関心を寄せている理由 イッチを切るため無人の坑内に一六歳 糸 た。 その後も少年の名前 事故で亡くなっ 田 町 地元では一九八 参 の皆さんもほぼ 加の皆さんが 韓国 坑内 停電になったので、 「不詳」と刻みました。 (田 人の ガス中 た四 糸田 ፲፲ 少 地 毒の 年の じた。 韓国 同じ を探し続け、 人 町 区人権センタ \mathcal{O} 年九月一七 \mathcal{O} 真岡 名前 慰霊 ため亡く コ 彼はそ 年九月 ースを歩き 朝 坑内 一碑を 鮮 がどう の一つを、 î 人 建立 日日に のま んお への人 町で の韓 ĺ な \mathcal{O} ŋ ス 七 勤

> 協 ことでした。 ら六四年目、 サング)」と刻銘できたといいます。事 \mathcal{O} \bigcirc)本名と出身地 力も得 九年一月に韓国政府 て、 「徴用」で強制連行され 碑を建立してから二八年目 が判明し、 0) 真相究明委員会 、「姜相 求 **(**カ た少 故か ン 0

糸 非 部 常// 間 田町隣保館内に建っています。 命・愛・人権と刻まれ の とこの 7 イクロバスの中、 話を交流し合いました。 たこの慰 長生炭鉱 霊 下関・宇 \mathcal{O} 碑 水 は、

、筆者は 下 -関から乗降車しました)

(七〇歳、

男性、

糸

田町教育委員会

【参加者の感想から】

《糸田町の皆さん》

○筑豊の炭鉱と違い、 で、 くて(※)、 の巻揚げ機ヤグラが五〇年経過し れている意味も知ることもできました。 て頂きました。宇部 今まで知らなかったことを勉 石垣のみが (※)五○年経過しないと文化財に登録されない 計興産内 国 海底での作業との の文化財に \mathcal{O} が沖ノ山 ていな 登 強 |炭鉱 ざさ 一録さ せ 事

t

(六〇歳代)

男性、

糸

田

町

五 七 歳 男 性、 田町 人権 同 和教育推進協 議会

○宇部 ことは だきありがとうござい で多くの \mathcal{O} 知りませんでした。亡くなられ 研 修修で、 方々が亡くなられた水没 貴重 な体験をさせ ました。 長 生炭 てい 事 故 鉱 た

> 方々の にも伝えてゆきます。 を祈っています。 事 を、 地 元の人たちや子どもたち 貴会の 活動 0 発

、七二歳、 女性、 糸田 町

〇大変参考になりました。 町 宇部市に 0 長生炭鉱 今までの運 の苦労 の今があるのは同じ旧産炭地として先 0 おける宇部興 (犠牲者) 「水非常」を通じて、 動実践もよくわ が わ 産の果たす役割、 かりました。 師 內 かりました。 岡さん) 我々の

○講師 した。 の方々のご苦労に敬服 についての説明は初めてでした。「刻む会」 更なる活動を期待しています。 本日 Ó 強制連 内 岡さん、 のような数多くの 行 0 本日は 話 を色 しています。 々きいて来ましょ 有難うござい 方 マの犠 牲 者 ま

○長生炭鉱のことは初めて知りました。 慨深 何 史的背景を考える時、 !かをしなければという責任感を覚えま 本日 ŧ は 0) 大変ありがとうございました。 が あ ります。 今生きる者として ま た、 過 去 \mathcal{O} 感 歴

八〇歳代、 男性、 糸田町)

○西光寺でお話いただいた井上さんの長き

(六四歳、男性、糸田町行政相談員)(六四歳、男性、糸田町行政相談員)

(六六歳、女性、糸田町社会教育委員)

○宇部炭田のすみずみ迄の説明を受けて大の字部炭田のすみずみ迄の説明を受けて大変参考になりました。今後の筑豊炭田も

(六五歳、男性、糸田町商工会議)

○宇部興産創業者(渡辺祐策氏)、地域との○宇部興産創業者(渡辺祐策氏)、地域との

《曹洞宗の皆さん》

(七○歳代、男性、

糸田町人権・同和推進協議会

鉱の社宅を見た記憶があります。今も社○私は宇部の出身なので、幼い頃、長生炭

故の詳細は知りませんでした。 宅にはどなたかお住まいですか。水没事

○キリスト教の宗派はカトリック、プロテ

○犠牲者のご遺体は全く上がらなかったの

※一体も確認できていません。

○長生炭鉱で働いていた生存者の方が追悼

二人が見えました。 二人が見えました。

ります。 の祠」があるというのは聞いたことがあ○一つひとつの炭鉱に、安全祈願の「ヤマ

【終わりに】

今年も多くの皆さんが長生炭鉱フィール や等およそ一七○人)。今後もリピータを含 めて、よりたくさんの方々に長生炭鉱の地 を訪れていただき、『友好・平和・人権尊重』 を訪れていただき、『友好・平和・人権尊重』 をうれていただき、『友好・平和・人権尊重』 をうれていただき、『友好・平和・人権尊重』

悼ひろばの整備・改善」を工夫して、子ど悼ひろばの整備・改善」を工夫して、子どなんたちにも楽しんでもらえる場にしていきたいと思いますので、ご意見・ご要望を事務局まで届けてくださるとありがたいです。



糸田町人権・同和教育推進協議会の皆さん (前列右2人目が佐々木会長)

活 動 習日誌

前回たより以降

九月二七日(金) 事務局会議

九月二九日(日)

 ∇ ∇

性同盟・山口同胞女性 在日本朝鮮民主女

セミナー

三日(木) 駐広島大韓民国

総

 ∇

一〇月

領事主催「国慶日」

セプション参加

〇月二一日(土) 事務局会議

 ∇

 ∇

〇月

四日(金)

宇部市との協議

 ∇

〇月三一日(木) 田町人権·同和教育協 田川郡糸田町「糸

議会」フィールドワー

月一二日(火) 曹洞宗山口県人権

 ∇

擁護推進委員会フィ

ルドワーク

 ∇ 月一五日(金) 宇部市との協議

 ∇ 月二六日(火) 事務局会議



思わず涙が出そうになった。

きたか切々と語った。聞いていた私は んな思いで朝鮮学校を維持し、守って たのだが、朝鮮学校のオモニたちがど



れの様子

県庁申し入

6 6

同席した。

今回、私は申し入れに初めて参加

じめ、日本人の支援者、県議会議員も

行われた。朝鮮学校のオモニたちをは

の後も毎週闘いは続き、去る1月27

回のたよりで支援のお願いをした。 て行くことが事務局会議で決まり、

そ 前

日(水)にも、

山口県庁への申し入れが

切り問題を「刻む会」としても支援し

朝鮮学校に対する補助金支給打ち

に合わない。政治的、差別的な判断で れず、ただ、「みなさんの思いはしっ かり伝えます」というのみだった。 たが、オモニたちの追及に何も答えら どう考えても補助金カットは理屈 県側は学事文書課の課長が対応し

(山内弘恵

支援の輪を広げていこう!

分からないが、闘いはまだまだ続く。

かない。12月議会ではどうなるか

事務局会議報告

事務局長 小畑太作

て主だったところをご報告します。二〇一四年九月以降の事務局会議につい

【「追悼碑」の拡充について】

す。 月に実施 て、 今年二月に一応の完成を見た追 ١, くつつ ました。 か \mathcal{O} 追 主な点は以下の二 加工事を検 討 淖 碑 点 に + で 0

た名称 としました。 を学べるように諸 見学に訪れ 強の看板を設置しました。 <u>\f</u> つように、 つ目 に つい は、 た人が ては 幅 海 九 岸 周辺の 情報を提示しました。 + 沿 「長生炭鉱追悼ひろ センチ高さ二メ 1 の市道 史跡 追 や歴 淖碑 から 吏 側 É 0 12 1 ょ く目 ば は 事 1 ま 実 ル

栽を施 つ目 Ļ は、 液 正 ポ 面 奥 ブ の を 碑 増設 文 \mathcal{O} 両 ま 側 L \mathcal{O} 壁 に 植

【「刻む会」の組織化について】

形態 心に に着手し 11 7 九 運営し 0 る組 九一 移 年の 織 行を検討してきました。 てきたわけですが 会員による、 \mathcal{O} 創 概要とし 立以 来 っては、 より民 事 務 主的 会則 会員総会を 局 会議 現 な \mathcal{O} 運営 在 策定 を 中

> す。 なり、 ては、 ょ ご参加 書を取り交わす予定です。 教 任 は 事務 団宇部緑 口 り』に会員 すると 高 代 先の 【表個人名義で取得していた土地 [総会は来年の5 決議機 的 同教会は既に総 長らく事務局 下さいますようお願 会則案を踏まえると同時に、 手続きを残すところとなってい いうも 橋教会に取得してもらうことと 関とし、 、登録票が同 のです。 運営担 を置 月 会の 頃 封され 今号 いてきた日本 を予定してい 承 当 1 致し Ď 者 認を得、 てい 「刻 は じます。 総 につ ・ます。 なむ会だ 会で選 基督 あと 、ます。 合 ま 第 意 11

免除の運びとなりました。 で約束していたとお 11 ては、 長らく懸案になっていた固 これまでの宇部市長との協 b, 追 悼 定資産税に 碑 建 立 を機 議の 中 0

【宇部市長との協議について】

間 宇 所 今 集を含め 会 五. 後も も市 存です。 から提案をする運びとなり、 宇部: カゝ 日 部 。 一 市 長 長 市 た七項 との 行 続 1 \mathcal{O} 口 ずれ 今後は、 政との協力点を見 出 開 催 協 て 席 育に 粘り強く協 も未だ実りは は しました。 議会を十月四日と十 ありませ わ X たる提 1 ル 等で協議会開 残念ながらこの 議 ん 殴を続け が、 出 ありま 案をし i す た め 遺 骨等 改め ま - 一月十 て せ て当 L \mathcal{O} \mathcal{O} た。 収

加とご協力をお願い致します。のお知らせをより広く行う予定です。ごれ

れについても、 た文言に重 るのですが ŧ 延 を継続します。 期以 \mathcal{O} 占。 は宇部 Ī 降、 ヤに 土大な問 市教 進展 関 既に報告し する説明板に 住 育委員会が既に が 問題があ 民監査 あ めりませ いったかい 一も視野に入れ交渉 たとお つい ん。 り、 らです。 作 説 て に成して 明板そ Ŕ 記され い \mathcal{O} 置

フィ ランを検討しました。 プラン等です。 るものを工 た機会となるように、 出 近に見ることが 訪 フ 来ることを願っていま れ 追 イ|] 悼 て下さった方々にとって、 ル 碑 ドワー 建 ル 作 立. ドワー 以 L 降、 近いうちに、 出来るプランや、 ク実施の受け入れですが 追悼ひろ ク受け入れに 大幅 いくつか 船上からピー E ば 増えた諸 実 より充 0 施 ついて 設置 の報 記念とな 新たなプ -ヤを間 寸 告 しする 実 体 ĺ が \mathcal{O} - 7 -

【『証言・資料集2』について】

す。 号の 運 七 び 倍の一 うです。 十二周 四〇ペ 千 年追悼集会に合わせて刊行する 部] 頒価 -ジ程 は三〇〇円の予定 で、 発 行 部数は 前

※詳しくは同封のチラシを見て下さい 追悼集会 追悼式 二〇一四年二月八日(土) 生炭 七二 追悼ひろば ヒストリア宇部 &新井英一 ――時~一二時 一四時~ 周年犠牲者追悼集会 鉱 水 没事 六時一〇分 コンサート 故 にて

・。・。・・</l>・・</l>・・</l>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</l>・・</l>・・・・・・・・・・<l>・・・・・・・・・・・・<l

「刻む会」一般会計報告(2013年9月1日~11月30日)

(円)

収 入				支 出				
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考	
前期繰越金	0	200,000		事務費	0	2, 340		
カンパ	158, 000	388, 346	*	広報費	108, 778	220, 967		
物販	1,600	1,600		追悼碑管理費	54, 386	57, 203		
雑収入	3, 740	4, 685		活動費	20, 923	25, 173	派遣費補助他	
				会費・カンパ	3,000	16,000	無窮花の会他	
				雑支出	540	660		
				税金	0	53, 449		
				小 計	187, 627	375, 792		
				繰越金	-24, 287	218, 839		
合 計	163, 340	594, 631		合 計	163, 340	594, 631		

※大久保和子 大原洋子 中里仁一 藤井和義② 横山正代 糸田町人権同和教育推進協議会在日本朝鮮民主女性同盟周陽支部 在日本朝鮮民主女性同盟山口県本部

全日本同和会大分県連合会 曹洞宗山口県人権擁護推進委員会 ちくほう共学舎「虫の家」 (敬称略)

以上感謝をもってご報告いたします。

「刻む会」特別会計報告 (2013年9月1日~11月30日)

(円)

収 入				支 出				
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考	
繰越金	0	5, 259, 766		繰出金	0	0		
繰入金	0	0		繰越金	0	5, 259, 766		
合 計	0	5, 259, 766		合 計	0	5, 259, 766		

追悼碑を一人でも多くの遺族に見ていただくために、 遺族招聘カンバにご協力ください!

【振込先】 ゆうちょ銀行 口座番号 01590-7-32405 【名義】 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会